

# 学校評価実施要項

宮城県立迫支援学校

## 1 目的

- 1) 学校経営，教育活動，教育成果について自己評価及び学校関係者評価を通して，学校教育を一層充実したものにする。
- 2) 学校評価を通して，学校の説明責任等のアカウンタビリティを含む経営責任の明確化，開かれた学校づくり，家庭・地域と学校との連携協力を進める。

## 2 推進体制

- 1) 「学校評価に関する実施」は評価委員会，学校関係者評価委員会をもって充てる。
- 2) 「評価委員会」は教頭，事務室長，教務部長，学部主事，各校務部長，他の職員も加わる。
- 3) 「学校関係者評価委員会」は学校評議員等で構成し，評価を行う。

## 3 評価の概要

11月	12月	1月	2月	3月
学校評価		反省会	新年度計画の作成と学校評議員会	
保護者アンケート 教職員アンケート	評価結果の作成 反省会準備	校務部会，学部会 全体会	校務部会，学部会	学校評議員会 学校関係者評価の実施

## 4 評価内容と方法

### 1) 評価者

教職員，保護者，学校評議員

### 2) 評価方法

(1) アンケート（評価票）による4段階評価（教職員，保護者）

A：達成している    B：おおむね達成している    C：あまり達成していない  
D：達成していない

(2) 各学部の教育課程の評価（教職員）

指導内容表に基づいた各教科の観点の取り扱いについて評価する。

(3) 学校関係者評価（学校評議員会）による評価

① 本校の教育    ② 施設・設備    ③ 地域との連携    ④ 教育活動の啓発

### 3) アンケートの内容（別紙）

(1) アンケート1（学校評価票） 集計：教務

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| ① 学習活動の充実             | ② 研究及び研修の推進      |
| ③ センターの機能を生かした地域支援の推進 | ④ 安心安全な環境の整備     |
| ⑤ 安心安全な環境の整備          | ⑥ 家庭・関係機関・地域との連携 |
| ⑦ 業務の平均化及び効率化         |                  |

(2) アンケート2（学部評価票） 集計：学部主事

- |           |            |
|-----------|------------|
| ⑧ 本年度の努力点 | ⑨ 教育課程について |
| ⑩ 年間指導計画  |            |

(3) アンケート3 (保護者分) 集計：教頭

- ① 学校運営      ② 学習指導      ③ 進路指導      ④ 保健指導      ⑤ 防災安全  
 ⑥ 安全管理      ⑦ 給食指導      ⑧ 教育相談      ⑨ 学校環境      ⑩ P T A  
 ⑪ 広報活動      ⑫ 学校生活

4) 各学部の教育課程の評価

法令等に従い、調和のとれた育成を目指した教育課程の編成に向けて現状を評価する

(1) 評価の方法

- ①教育課程に含まれる指導内容を全て確認することは困難であるため、各教科の観点を  
用いて評価する。  
 ②全ての指導の形態を確認することは困難であるため、抽出した指導の形態を切り口に  
して各教科の観点について取り扱いの状況を確認する。  
 ③抽出する指導の形態は取り扱う指導内容の幅広さと各学部で実施していることから生  
活単元学習とする。

(2) 評価の手順

- ①生活単元学習の単元一覧表に、取り扱っている各教科の観点到○を記入する。  
 ※原則として計画の立案をした T1 が担当した単元に○記入する。小中は T1, 高は学年ごとで記入。  
 例 (部分抜粋)

単元・題材名	国語(1~6)				算数・数学(1~6)				生活科(1~3)												
	聞く	話す	読む	書く	数量の基礎と計算	量と測定	図形・数量関係	実務	基本的な生活習慣	健康・安全	遊び	交際	役割	手伝い・仕事	きまり	日課・予定	金銭	自然	社会の仕組み	公共施設	
買い物に行こう										○					○				○		○
散歩に行こう										○					○				○	○	○

- ②年間を通して○が記入されていない各教科の観点を拾い上げ、学部主事が集約する。  
 集約した資料を基に取り扱いの状況や取り扱わない理由など学年部で考えておく。

例

点線部は学部主事が作成する	学年・学級	中2年生	年間の単元数	22
	教科名	取り扱いのない観点	どの指導の形態で取り扱っているか 教育課程で取り扱わない理由	
	数学科	数と計算	学年在籍生徒8名のうち、3名は数学の時間に取り扱っている。 5名は1段階の達成も難しい実態ということで、生活単元学習や国語・数学の指導でも取り扱いが困難である。	
	保体科	保健(4段階から)	生徒の実態を考えると4段階以降ということもあり、取り扱うのは困難と考えた。	
次年度教育課程編成に向けての改善策				
生徒の実態等、現状から大きく変わる可能性は少ないため、現状通りの取り扱いとする。				
破線部は学年部内で検討し、学部会で共通理解を図る(1月の学部反省会)				

- ③ 1月の学部会で共通理解を図り，次年度教育課程編成に向けての改善策を協議する。
- ④ 改善策が立案が困難な場合や各学部間での調整が必要な場合は1月，2月の教育課程編成委員会に諮る。
- ⑤ 改善策として年間指導計画等の変更がある場合は次の点に留意する。
- ・児童生徒は取り扱いのない観点が残ったまま進級するので，進級した年間指導計画に観点を取り残しがないかどうか確認する。
  - ・観点を取り残しがある年間指導計画を次年度の同学年も継続して使う際には，取り残しがないように確認しておく。
- ⑥ 各学部で評価する教科は以下のとおり。

小学部1～3段階	国語科	算数科	生活科			音楽科	体育科	図画工作科				
中学部1～4段階	国語科	数学科	生活科	社会科	理科	音楽科	保健体育科	美術科	職業家庭科	外国語科		
高等部1～6段階	国語科	数学科	生活科	社会科	理科	音楽科	保健体育科	美術科	職業科	家庭科	外国語科	情報科

## 5 学校評価日程

	会 議	内 容	進行役
10月	学校評価委員会 運営委員会 職員会議	学校評価計画の検討 学校評価委員会の検討を経て運営委員会で検討 学校評価計画の提案と共通理解	教頭・教務 教頭・教務 教頭・教務
11月・12月	学校評価委員会	学校評価票の配布（保護者，教職員） 学校評価票の回収と集計（評価結果の作成） 評価結果の確認と各校務部会等への振り分け	保護者：教頭 全職員：教務 各学部：主事 教頭・教務
1月	校務部会 学部会 全体反省会 教育課程編成委	評価結果を基に反省と改善策 評価結果を基に反省と改善策 全体反省会の資料準備 全体反省会の実施 教育課程編成に向けての学部間の調整	校務部長 主事 教務 教頭・教務 教頭
2月	校務部会 学部会 教育課程編成委 学校評議員会	新年度計画の作成 新年度計画の作成 教育課程編成に向けての学部間の調整 学校関係者評価の実施	校務部長 主事 教頭 教頭
3月	運営委員会 職員会議	学校関係者評価とその考察について検討 学校関係者評価とその考察について共通理解	教頭・教務 教頭・教務

## 6 評価結果の公表

- 1) 教職員：職員会議や学校評議員の会議等で公表する。
- 2) 保護者，学校評議員：学校だより，学校評議員の会議等で公表する。

## 7 その他

- 1) 必要に応じて見直し改善を図る。
- 2) 教職員，保護者アンケート，学校関係者評価は，すべて無記名で実施する。